

# Summer Medical Education Institute Student Workshop

## 報告書

2017年8月13日から17日にかけてハワイ大学医学部で行われた Summer Medical Education Institute Student Workshop に参加して参りました。ワークショップではPBLや模擬患者との医療面接、注射実習などを行い、その全てが英語で行われました。

PBLは循環器、呼吸器の範囲で2回行いました。シナリオはPBLのstep1で初めて目にしたため、予習が出来ず、知らない英単語に四苦八苦しました。また、呼吸器や循環器の知識が不十分で分からないことも多くありましたが、分かる範囲のことは積極的に発言するよう努めました。PBLではそれぞれのグループにハワイ大学の学生さんがついて、私たちが考えに詰まると助け舟を出してくれました。その時に感じたのは問題提起がとても上手だということです。私は与えられた問題を解くことはできても、自分でまだ知らないこと、知っておかなければならないことを挙げて勉強するのは苦手なのだと気が付きました。これは今後の課題として、意識して自分で勉強していくよう努めようと思っています。

模擬患者さんとの医療面接は禁煙指導と、呼吸が困難な患者さんに対しての面接の2回行いました。ハワイ大学には本当に病院にあるような診察室がいくつかあり、そこでビデオを撮影されながら面接を行いました。学生同士で練習をしてから面接に臨みましたが、やはり相手が見知った学生であるのとまったく知らない模擬患者さんであるのとでは大きく異なり、とても緊張しました。この模擬医療面接を通して指導や診察の方法だけでなく、医師としての振る舞い方を学びました。患者さんに対して誠実に丁寧に、というのは誰でもわかっていることですが、実際にやってみるとちょっとした声掛けが出来なかったり、体を起こす手伝いをしていなかったり、と配慮が足りていない部分が多くありました。このような反省点を先生が一人ずつ書いて下さっていたのでとても勉強になりました。

注射実習は私が最も楽しみにしていたもののひとつでした。学生同士でペアになり、相手に筋肉注射、皮下注射、そして自分に対してインスリン注射を行いました。人に針を刺すという体験は初めてで、正直なところ怖いと思いました。しかし、先生が医師役が怖がっているのは患者の方も不安になるとおっしゃるのを聞いてその通りだと感じ、冷静でいるよう努めました。3年生のこの時期に日本ではできない注射実習ができて大変良い経験になりました。

ハワイ滞在中は勉強だけでなく、たくさん遊びにも行きました。ハワイ大学の学生さんが様々なところへ連れて行って来て私たちだけではできなかったような体験ができました。話を聞いてみると、彼らは授業がある期間中も放課後は遊びに行ったりしているよう

で、勉強と遊びの両立ができていると感じました。勉強するときはきちんと勉強し、遊ぶ時はよく遊ぶ、というようにメリハリのついた生活を送ることが重要なのだと思います。私も見習いたいと思いました。

この充実した5日間でたくさんのことを学び、触発され、これからますます勉学に励みたいと思うようになりました。ワークショップに参加して本当に良かったと感じています。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった担当の先生方、私たちを温かく迎えてくださった JABSOM の先生方、相談に乗ってくださった先輩方、そして佐賀大学学生海外研修事業、医学部医学科後援会、佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会の方々に感謝いたします。

## The August 2017 Summer Medical Education Institute in JABSOM

8月13日～17日に行われたハワイ大学臨床推論ワークショップに参加した。以下にその詳しい内容の報告をする。

### **PBL**

日本でいつもしているような流れで症例検討を行った。やはり、資料や議論が全て英語であったため、戸惑ったが、自分で考え、発言することができた。JABSOMでのPBLを経験して最も感じたことは、知らないことやわからないことを恥じるのではなく、自分が学ぶべきことを明らかにすることが重要だということだ。そこが日本との差だと感じた。ハワイ大学の学生は少しでもわからないことや知らないことがあると、すぐにわからないと示し、Learning issuesに挙げ、放課後や土日に調べると聞いた。実際に、夏休みにも関わらず多くの学生が図書館で勉強しており、学生の勉強する意欲がかなり高く、自ら学ぶ力がとても強いと感じた。彼らの姿は私にとって刺激的であり、とても鼓舞されるものだった。

### **Physical Examination Skills**

聴診器を使って心音と呼吸音を聞いたり、打診をしたりする胸部診察実習を行った。心音や呼吸音の部位による違いや音の違いを基本から教えてもらい、まだ日本で学んでいなかったけれど、わかりやすく、とても勉強になった。特に、緊張している患者さんの横に立ち安心させるように診察することを強調していたのが印象的だった。

### **禁煙指導、医療面接**

実際に模擬患者に対し医療面接を行った。事前に準備をしたが、模擬患者への医療面接は初めてでさらに英語ということでもとても緊張した。禁煙指導では“5 A's (Ask, Advise, Assess, Assist, Arrange, follow-up)”に沿って指導を行うことを学んだ。しかし、実際に患者を前にすると緊張して、上手く禁煙へ誘導が出来ず、言語の壁と共に禁煙指導の難しさを感じた。患者は以前にも禁煙に失敗しており、今回の禁煙が成功するか不安に思っていたが、何と伝えればよいかわからず、ただ頑張りましょうとしか言えなかった。もっと具体的な指導で不安を抱える患者に寄り添えるようになろうと感じた。後にビデオで撮った医療面接の様子をみんなでフィードバックして、上手く行った人のビデオを見ながらお互いに意見を述べて学び合う時間はとても刺激的で勉強になった。特に韓国からの学生が行っていた患者への気配りの仕方は学ぶものが多かった。

### **注射実習**

筋肉注射、皮内注射、自己注射を実際に体験した。他大学の学生とペアを組み、お互いに行った。学生のうちは中々、注射を実際に打ちあうような実習はないと聞いたので、貴重な経験だった。最初は不安や恐怖心が強かったのが、実際にやってみると全く痛くなくてびっくりした。怖がらずに **Challenge** して良かった。

### シミュレーション実習

マネキンを使って不整脈を起こした患者に対する CPR、電気ショックといった救急の一連の手順を学んだ。ここでは、チームとして皆の役割があり、私はチームのリーダーとしてチーム全体を任された。Dr. Sakai が強調して言ったことはリーダーがチームの皆を不安にさせるようなことはしてはいけないということだ。焦らずに冷静にチームを率いるというのは難しいけれど確実にそうであるべきだと感じた。また、医師は患者を第一に考え、率先して行動しなければならないという “I’ll do it” という精神が最も重要だと教えてくれた。私はここでチームのリーダーとして働く医師のあり方を学んだ。

また、機械を用いて気管内視鏡や外科的な手技の練習を行った。気管内視鏡の練習では何度も気管の壁に当たり、声門に引っかかってしまいとても難しく実際の患者さんじゃなくてよかったと思った。手技の練習はゲーム感覚で行うことができ、日本でもこのような機械があればもっと楽しく学べると感じた。



写真1 注射実習



写真2 マネキン実習

### 研修を通じて…

ハワイ大学で研修中に学んだことは3年生の私にとってほとんど発展的な内容だった。そのどれをとってみても患者第一の医療に繋がっており、これから医療を学ぶ上で、医師と

なるための重要な気持ちの持ち様を学んだ。3年生になり待ちに待った臨床各論の授業や入学の当初から楽しみにしていたPBLが始まり、これからどのように学んでいくのかと漠然と悩んでいたため、このハワイ大学で学んだことは忘れられないものとなるだろう。

ハワイ大学や他の大学の学生との交流を通じて特に感じたのが医師を目指す者としての学びへの貪欲な姿勢である。それぞれが自分の将来の医師像を見据えて学ぶ姿勢が私にはまだまだ足りないと感じた。今まで他の大学との交流が少なかったため、同じ志をもったたくさんの友人と話せてとても刺激だった。彼らとランチやディナーに行き自身の将来の医師像やそれぞれの大学の話をしたことや美しいビーチに行ったことも一生の思い出になるだろう。彼らとの繋がりはこれからも大切にして情報交換や交流を続けていきたい。

最後に、素晴らしい学びと共に、素晴らしい先生、友人と出会えたこの研修に行ける貴重な機会を与えて下さった方々をはじめ、サポートをして下さった先生方、佐賀大学学生海外研修支援事業、同窓会、医学部後援会の方々、未熟な私を温かく指導して下さったJABSOMの皆様に心より感謝します。